

麻酔科医の役割と

人材育成の重要性

一般の人々には、手術を受ける時にしか縁が無いものと考えられがちな麻酔。しかし近年、手術以外の様々な場面で麻酔が活用されており、さらに薬の多様化や技術の進歩に伴って、安全性も大幅に向上しているという。現代の医療に欠かせない麻酔の活用法と麻酔科医の役割について、宮崎大学医学部麻酔生体管理学教授の恒吉勇男氏に聞いた。



宮崎大学医学部 麻酔生体管理学
教授 恒吉 勇男 氏

手術時の麻酔だけでなく 多岐にわたる麻酔科医の業務

麻酔科医が必要とされる医療の場面は、大別して4種類あります。まず、皆さんもご存知の「手術麻酔」。これは、外科手術の際に患者さんを痛みから守り、手術が安全に行えるようにするためのもので、手術する部位や手術時間によって全身麻酔と局所麻酔を使い分けれます。

次に「ICU(集中治療室)」における麻酔科医の業務。ICUに搬送されるような重症患者さんは、血圧や心拍数、呼吸状態などが刻々と変化するため、それを常にチェックしながら臨機応変に対処する「全身管理」の業務です。手術麻酔以外の内科的な業務として重要なのが、慢性的な痛みを治療する「ペインクリニック」と、主にがんの痛みを取り除く「緩和医療」です。

いずれも、麻酔科医としての専門的な知識と技術が必要です。当院ICUでは、患者さんの全身状態を制御する麻酔科医が、チーム医療の中心的役割を果たしています。

薬の多様化と安全性向上で 拡大する麻酔科医の領域

麻酔薬そのものが年々進歩していることに加え、脳波をもとに麻酔の効き具合をリアルタイムに判断できる「BISモニター」など医療機器の発展により、麻酔の安全性は大幅に高まりました。手術が終了して麻酔が切れた後、患者さんが痛みに苦しむようなこともほとんどなくなりました。

投与した麻酔薬が体内のどのあたりを巡り、血中濃度がどの程度か……といった薬物動態が正確に把握できるようになったことで、麻酔薬を過度に使うリスクも大幅に低減しました。

また、痛みの感覚を脳に伝える神経が、身体どの部分分を走っているかをエコーで確認できるようになったことで、脊髄の外側まで管を

通して麻酔薬を流す「硬膜外麻酔」や末梢神経に麻酔薬を直接作用させる「神経ブロック」など、局所的な麻酔も的確に行えます。麻酔薬の進歩と安全性の向上により、神経が傷ついていることでも痛みを感じる「神経因性疼痛」、心理的要因で引き起こされる「心因性疼痛」など、一般の診療科では対処できない痛みに対しても、麻酔科医が確な治療を行っています。

こうした麻酔科医の役割と痛みの原因をより多くの方々を知って頂くため、8月31日に宮崎県都市総合文化ホールにて市民公開講座(※)を開催します。近隣にお住まいで慢性的な痛みにお悩みの方は、気軽にご参加下さい。

全国的な麻酔科医不足と 宮大の麻酔科医育成への取り組み

現在、全国的に麻酔科専門医が不足しています。特に地方都市ではその傾向が顕著であり、早急な手術が必要な状態であるのに麻酔科医がいないうことで手術が行えず、患者さんに長い間待つてもらうざるを得ない……といった、由々しき状況が頻発しています。

この状況が進むと、地方都市では緊急手術が行えなくなる状態に陥るかもしれません。そこで宮崎大学は、九州各県の大学病院などと連携し、新たな麻酔科専門医を育成するプログラムを予定しています。九州内の大学病院や大型基幹病院と連携して後期臨床研修を受け入れるシステムです。宮崎大での麻酔科研修に加え、合計4年間の九州域内の関連研修施設での麻酔研修で専門医への道が拓けるプログラムです。

若手研修医の多くは、やはり田舎より都会の病院に勤務しますが、厚労省は、大都市圏に偏在しがちな研修医を地方に分散するため、都市部の病院で麻酔科専門医の研修ができる人数に制限を設ける予定です。そこで、麻酔科医不足のため

受け入れ人数に制限がない当大が受け皿となり、麻酔科専門医を目指す若手を育成し、麻酔科医不足の現状に二石を投じたいと考えています。詳しくは、宮崎大学医学部附属病院麻酔科専門医研修プログラムをご覧ください。

もし皆さんの身近に、現役医学部生や医学部合格を目指しているお子さんがおられたら、このような研修プログラムがあることを、ぜひ教えてあげて下さい。(談)

広告特集

企画・朝日新聞社メディアビジネス局

※詳しくは「痛みからの解放」事務局 ☎0685559510(7月1日より受け付け)